2020年度　事業報告（グループホーム）

グループホーム　施設長　山本靖雄

2020年度は「秋篠ハウス4名（男性）」・「若葉ハウス5名（女性）」・「富雄ハウス6名（女性）」の3事業所で実施した。（秋篠ハウスは1名の定員の空きのまま実施した。若葉ハウスは例年通り5名で実施した。富雄ハウスは6名で実施した。）

富雄ハウスは昨年度からの2名の新規利用者も月日を重ねる毎に徐々にグループホームにも慣れ、定着する事が出来た。その間、今までの生活背景、家族関係、友人関係、今のグループホームのメンバーとの関係性などで悩む事はあったが、その都度統括施設長・相談支援員・グループホーム施設長・グループホームスタッフで話を聞き対応した。時には、本人の話す内容が聞く人によって少しずつニュアンスが変わってくる傾向があった為、情報の共有を行い、チームとして対応する事が大切で適切な助言等にもつながった。

また、富雄ハウスは老朽化に伴い2021年5月より（引っ越しは4月28日）新ホームとして高山ハウス（奈良県生駒市高山町）に移転の計画を進めていった。

各ホームの利用に関して、例年は全メンバーがコンスタントに宿泊を行えていたが、今年度はコロナウイルス感染拡大の影響で、宿泊のキャンセル、自粛が相次いだ。また、施設での感染者があった場合は、あゆみの会としてもグループホームを閉鎖せざるを得ない時期もあった。

宿泊のキャンセル・自粛のメンバーに関しては、ご家庭への電話連絡を行い、ご自宅での様子を聞く対応を取り、在宅支援に結び付けていった。

ご家庭の中には「自粛をするがいつまでコロナが続くのか不安」「いつ自粛を辞めて宿泊を再開させたら良いのか分からない」「子供がコロナに感染したらどうしよう」等など、不安や悩みの相談が相次いだ。その都度、ご家庭の相談にも耳を傾け、あゆみの会グループホームとして今できる感染予防を説明し、ご家族への安心感につながるよう説明した。また並行して、グループホームとして

可能な限りの感染予防対策（手洗い・うがい・消毒・食事方法・介助時のフェイスシールド、手袋の着用等）を行い、無事再開する事は出来た。しかし、現在でも社会の中で蔓延が場続く限り、スタッフや保護者の中には、「コロナウイルスの感染が拡大し閉鎖になったらどうしよう」という不安は常にみられる状況である。

メンバーの中でも「コロナウイルス」という未知のウイルスに「怖い」「どこにも行けないからストレスが溜まる」「早く終息しないかな」など相談がありその都度、話を聞いて対応した。また、外出時はマスクの着用を徹底した。まだ「コロナウイルス」は終息していない状況ではあるが、メンバーも上手にストレスを発散しながらそれぞれの生活をしている状況である。

　今年度はグループホームとして外部との交流は全てキャンセルとなった。奈良市グループホーム会議においてもリモート会議が増え、お互いの情報の共有を行い「コロナに負けず頑張ろう」という話も出た。また、世話人・生活支援員の方も「感染の恐怖」と葛藤しながらも勤務を続けてくれている。今後もこういった状況は続くと思うが、メンバー・ご家族・スタッフ（世話人・生活支援員）の不安さにも特に配慮して、皆さんに安心して利用・参加できるよう実施していきたいと考える。